



気付き、考え、実行する茂木っ子

もぎたて通信



令和5年7月14日 第12号

文責：校長 北村 和則

7月生活目標

ていねいな言葉をつかおう。さんづけをしよう。

評価の在り方（あゆみ）について

もぎたて通信第11号においてあゆみの見方について説明させていただきました。今回はもう少し詳しく「観点別学習状況」について説明させていただきます。

学習指導要領の改訂では、児童は「何ができるようになるのか」という視点に立ち、全教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に整理され、学習評価の観点も3観点で示されました。観点別学習状況の評価の3観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」となっています。以下に、文部科学省の3観点の考え方について示しています。

「観点別学習状況の評価」の3観点の考え方

知識・技能

学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。

現行の「知識・理解」と「技能」が統合されたものです。理解を伴った知識を基に、他の場面でも応用できる知識や技能の習得状況の評価します。

思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。

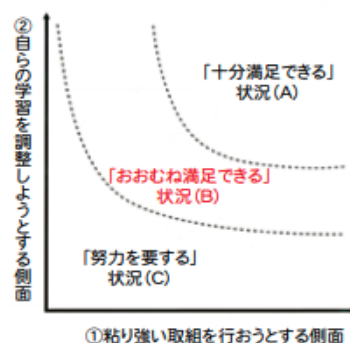
自分の考えを表現させたり、問題解決的学習で最適な答えを思考・判断させたりする等の学習場面を通して評価をします。

主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②その粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整しようとする側面**、という二つの側面から評価します。学習の進め方について試行錯誤する等の調整をしながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

適切に評価するためには、児童生徒に学習のめあてや見通しをもたせたり、その達成状況を振り返らせたりすることが必要です。また、学習の途中にそのやり方等を調整しているかを見取することも大切です。児童生徒の内面の変化を表出させる場面づくりが求められています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ



(注)イメージ図は、「学習評価の在り方ハンドブック」(文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター、令和元年6月)から引用。

特に「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえたうえで、評価を行う必要があるため、**昨年度の「あゆみ」と比較すると、厳しい評価となっている**かと思います。我々教師が研修を深め「指導と評価の一体化」を図ることで、評価が授業改善や学習改善へ結び付き、児童の確実な資質・能力の育成に結びつくよう努めていきます。大切にしていきたいことは、他との比較ではなく、一人一人のお子さんについて、より良い学び、より良い成長のためにあることをご確認いただき、◎の数に一喜一憂することなく、子どもの励ましやさらなる意欲につながるような声掛けをお願いします。詳しくは、個人面談の折に担任からの説明があります。

裏面に、詳しく観点別の評価について説明しています。